

ボン大学開発研究センターとMOUを締結

企画調整部研究情報システム科長 廉沢 敏弘

農業環境技術研究所とドイツのボン大学開発研究センターは、2004年3月4日に、自然資源の保全と利用に関して研究協力を進めるためのMOU（協力覚書）を締結した。

ボン大学開発研究センター（ZEF）は1995年にボン大学内に設立された国際的かつ学際的な総合研究機関である。ここには、開発研究分野の研究者・指導者・管理者の育成を目的とする国際博士課程プログラムが設置され、開発途上国あるいは開発関連研究機関で実施される研究プロジェクトにおいて、開発への学際的な視点と統合的アプローチを重視した教育・指導が行われている。

農業環境技術研究所とボン大学開発研究センターは、このMOUに基づいて、(1)研究者の交流、(2)大学院学生の交流、(3)技術情報の交換、(4)両機関で進行中の研究課題に関する共同研究を実施することになった。すでにこの覚書のもとに、当研究所の生物環境安全部植生研究グループの大黒俊哉主任研究官が、ボン大学開発研究センターで研究プロジェクトに参加している。

以下に大黒主任研究官からの便りを紹介する。

『3月25日より1年間の予定で、客員研究員としてボン大学開発研究センター（ZEF）に滞在しています。ZEFは、ライン川のほとり、博物館や美術館の建ち並ぶ通り（Museumsmeile）に位置し、ヨーロッパだけでなく、アフリカ、アジアなどのさまざまな国の研究者、学生が研究・教育活動を行っています。私は現在、西アフリカ・ボル

タ川流域の水資源管理に関するプロジェクト（GLOWA-Volta）に参画しています。このプロジェクトは、流域圏を対象とする水資源の持続的利用のための意思決定支援システムの開発を最終目標としており、気象、水文、土壌、経済、法律など、さまざまな分野の研究者が参画しています。5月にはさっそく、ブルキナファソへの出張の機会があり、気象・土壌のスタッフと、気象観測ステーションの設置やセスナ機からの空中写真撮影などを行いました。

ZEFでは学際的な研究アプローチが重視されています。このプロジェクトでも、水文学と経済学のバックグラウンドをもつDr. Charles Rodgersのもとで社会科学を含む異分野間の交流が日常的に行われており、たいへん刺激的な毎日を送っております。限られた期間ではありますが、この貴重な機会を活かし、学際的研究や国際共同研究の経験を深めたいと思っています。』



写真2 大黒主任研究官（ボン大学開発研究センターにて）

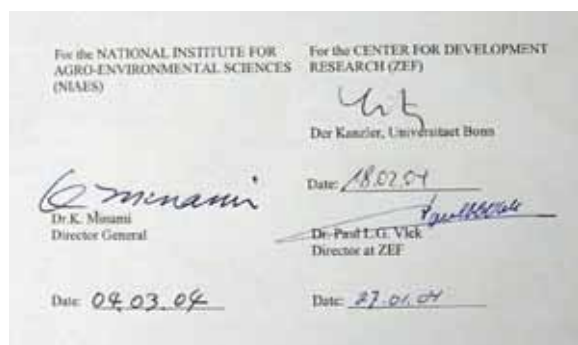


写真1 MOUへの署名

当所は、これまでに海外では大韓民国 農村振興庁農業科学技術院（2001年10月31日）および中華人民共和国 中国科学院南京土壤研究所（2002年7月4日）と、また国内では東京農業大学（2003年12月10日）および鯉淵学園（2004年2月2日）と、それぞれMOUを結んでいる。